

月刊しばうら

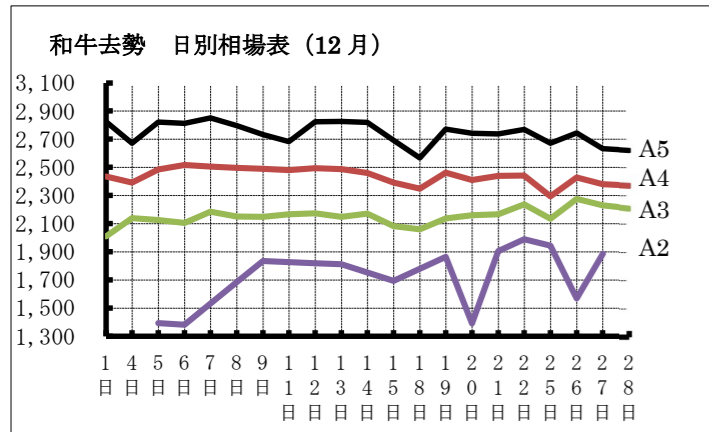
2024年1月号

此度の能登半島地震に謹んでお見舞い申し上げます
被災された皆様のご心労やご不便を
拝察致しご察じ致しております
どうかご自愛くださいますよう心よりお祈り致します

牛肉営業部

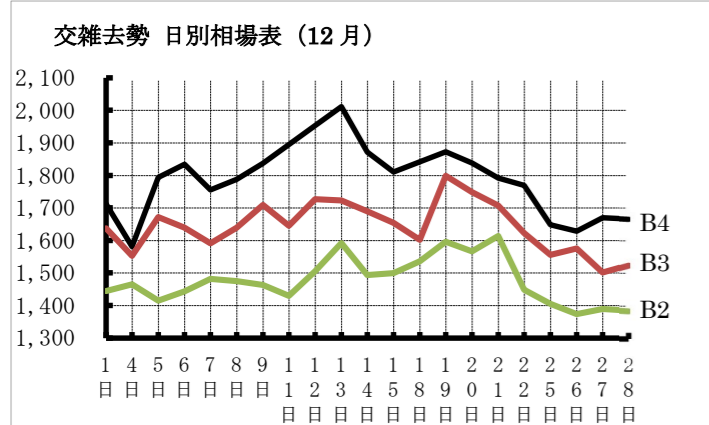
<12月の相場動向>

年間でも牛肉の最需要期である12月であるため、例年どおり前月相場を上回ったが、特に和牛においては全等級で前年を上回る結果となった。交雑については4等級が前年を下回ったものの、3・2等級は和牛同様に前年を上回る結果となった。物価上昇が続き、牛肉需要が低迷した2023年であったが、12月においてはその反動需要による相場高と、2022年の12月が冷蔵需要の頭打ちで相場が伸び悩んでいたこともあって、対比として前年を上回っている。また、輸入牛肉の原価上昇によって輸入量が減少したことにより、交雑種への代替需要が高まったとも考えられる。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,769円	+37円 101.4%	+115円 104.3%
A4	2,454円	+37円 101.5%	+194円 108.6%
A3	2,145円	+69円 103.3%	+175円 108.9%
A2	1,754円	+108円 106.6%	+5円 100.3%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,768円	-126円 93.3%	+72円 104.2%
B3	1,658円	+51円 103.2%	+138円 109.1%
B2	1,481円	+192円 114.9%	+159円 112.0%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	—	—	—
B2	789円	-331円 70.4%	+4円 100.5%

<1月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、11月の輸入量は前年同月比15.3%減の3万3,419tで、うちチルドは18.0%減の1万4,465tと下回った。フローズンは、前年同月比13.1%減の1万8,954tと下回った。
農畜産業振興機構によると12月の牛肉輸入数量は、前年同月比2.6%減の3万6,500t(チルド0.9%減・冷凍3.5%減)、1月は8.3%減の3万6,600t(チルド2.9%減・冷凍11.8%減)で予測している。1月のチルドは豪州産の生産量が増加する一方で、北米産輸入量は現地価格の高騰で少ない見込みであることから前年同月を下回ると予想。フローズンは国内輸入品の在庫が多いことや北米産現地高により輸入量が少なくなる見込みで前年を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		11月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,692	6,016	111.2%
	米国	6,607	9,662	68.4%
	その他	1,166	1,958	59.6%
	合計	14,465	17,636	82.0%
フローズン	豪州	8,078	8,289	97.5%
	米国	6,326	7,803	81.1%
	その他	4,550	5,720	79.5%
	合計	18,954	21,812	86.9%

出典：食肉速報 単位：t

<1月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による1月の出荷予測頭数は、全体で前年比98.9%の8万3,400頭で、品種別にみると和牛は0.1%減の3万6,000頭、交雑種は2.3%増の2万500頭、乳用種は4.4%減の2万5,600頭と予測している。
東京食肉市場の1月のと畜頭数は6,490頭を予定しています。

<1月の牛枝肉相場見通し>

2024年は初せりが遅いうえ、各産地のと場においても新年の入荷が月の中旬にかかってくることから、上旬から中旬にかけての手当て買いもあり、相場は高値で推移することが見込まれる。しかし、月末にかけては年末年始の出費による反動と、再び節約志向の生活に戻る事が予想されるため、牛肉需要は低迷していくと考えられる。

牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,550~2,800	B4	1,550~1,650
A4	2,300~2,500	B3	1,400~1,500
A3	2,100~2,200	B2	1,250~1,350
A2	1,850~1,950		
乳牛去勢			
B3	950~1,050		
B2	800~900		

豚肉営業部

11月の全国と畜頭数は、148万3,301頭で前年同月並みとなった。また、11月の豚肉通関数量は7万4,885t(前年同月比14.9%減)と前年を下回り前月比では6.7%の増加となった。内訳はチルドが3万5,700t(同15.4%増)、フローズンは3万9,185t(同14.4%減)。

2022 - 2023年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
比	102%	85%	108%	94%	100%	94%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

11月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	13,903	76.1%	デンマーク	3,972	40.2%
カナダ	17,746	86.6%	スペイン	12,604	100.0%
メキシコ	4,036	118.0%	メキシコ	5,985	85.9%
			アメリカ	2,981	133.4%
			カナダ	3,330	148.8%
合計	35,700	84.6%		39,185	85.7%

単位：t

<12月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	67,500	579	566	885
4日	70,000	614	602	776
5日	69,400	640	628	953
6日	65,500	643	623	677
7日	69,600	639	614	622
8日	67,200	624	599	831
9日	—	604	593	648
平均	68,200/日			770/日

12月に入り年末に向けた引き合いが徐々に強まったことで上物、中物ともに600円絡みの相場展開となった。朝晩の冷え込みも厳しくなり鍋物の需要が強まったこともあり、堅調な荷動きとなった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	70,400	596	577	1,061
12日	70,600	575	558	856
13日	70,800	557	543	720
14日	72,400	543	519	761
15日	70,300	522	506	1,109
18日	73,000	515	488	913
19日	74,200	515	499	954
平均	71,671/日			911/日

年末に向けた手当て買いがピークを迎えるとみていたが、相場は急落する展開となった。全国と畜頭数が7万頭を超える日が続いたことで上旬から100円以上の下落となり、年末の高値相場とはならなかった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	73,000	522	501	943
21日	75,300	494	480	1,001
22日	74,100	510	501	1,133
25日	78,000	512	496	945
26日	76,400	517	493	1,082
27日	64,600	498	466	932
28日	—	448	435	820
平均	73,567/日			979/日

日本海側を中心に猛烈な寒波が押し寄せた影響から物流の遅れがみられた。正月休みを前に出荷頭数が増加したことで相場は500円を割り込む展開となった。

<1月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和6年1月の肉豚出荷予測では142万0,000頭(前年比102%)と予測している。当市場の1月集荷予定せり頭数は1万7,000頭、1日あたりでは約944頭を見込んでいます。
農畜産業振興機構によると1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万2,700t(同97.1%)、内訳は冷蔵輸入量が3万3,000t(同95.5%)、冷凍輸入量は3万9,700t(同98.5%)と予測。

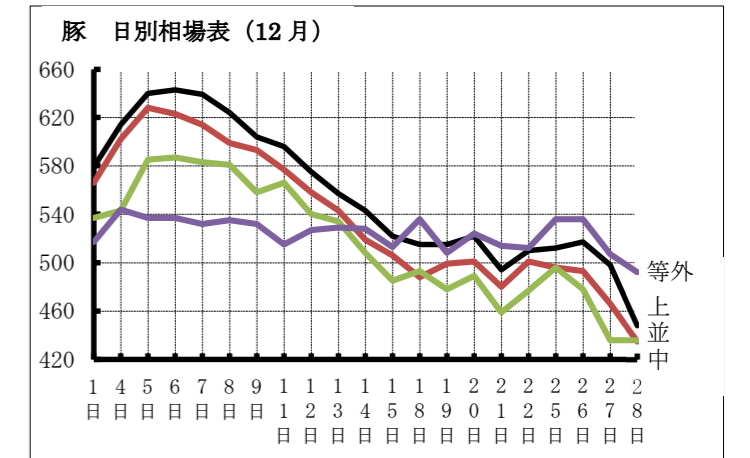
冷蔵品輸入量は北米産の現地相場高の影響等から前年同月をやや下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は前年のカナダ産の輸入量が多かったこと等から、前年同月をわずかに下回ると予測する。また3ヵ月平均でも前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

1月は例年、年末年始の出費による反動で需要が鈍る時期となる。学校給食の再開によって需要は中部位からスソ物の動きへシフトする流れになることが予想される。

供給面では全国的に気温が高く暖冬になることが予想されており、肉豚の生育も順調で出荷頭数は比較的安定するとみられ、1月の全国と畜頭数は例年よりも増えることが予想される。下旬にかけて寒波による増体悪化や疾病など、出荷に影響を及ぼす要因がなければ相場は軟調な展開となりそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は520円前後、中物平均価格500円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127